

大泉桜学園 教育の重点

9年間を見据えた教育活動において「命の教育」を根幹に置き、社会を担う児童生徒の自覚と自立の精神を育成します。

異年齢集団の交流と学び合いを生かした教育活動を推進します。

- ◎入学式、卒業式などの儀式的行事や児童生徒会の主催行事、委員会活動、クラブ活動、部活動などを通じた、異学年同士の学び合いの充実
- ◎全9学年参加での運動会・桜祭の清新・澁刺とした発表形態の充実（5月・10月）
- ◎複数学年による縦割り遠足・飯盒炊爨・校外学習・交流給食・ふれあい給食等の充実
- ◎最高学年9年生を学校のリーダー像、4年生を東校舎のリーダーとした、望ましい人間関係の醸成

指導方法の工夫・改善に努め、児童生徒の能力の一層の伸張を目指します。

- ◎学力の向上を図るために、少人数算数担当教員を中心にして、個別学習室を活用した補充学習、学習ボランティア等の取組を拡大
- ◎西校舎で5、6学年の50分授業・10分休みをサイクルとした学校生活の更なる充実
- ◎5、6年生一部教科担任制の推進（社会・理科）並びに理科TTによる実験等の充実
- ◎少人数指導の充実（算数・数学、英語）をはじめとして基本の習得を図り、また、9年生での卒業論文、制作活動など、9年間で身に付けさせるべき表現力の構築と学力の向上
- ◎地域人材、学生ボランティア等を活用し、児童生徒の生活支援及びその専門性を生かした教科指導、特別活動等の充実・発展
- ◎7年生を中心とした第Ⅱ期の指導内容の研究と充実（防災リーダー構想の継承発展）
- ◎一貫校としての評価・評定について研究・検証し、指導と評価の一体化を図る。
- ◎新学習指導要領のねらいに基づき、自立的・協働的に学ぶ児童生徒の育成を目指した研究の推進

日本の伝統・文化の理解を深め尊重する態度を育てる体験活動を充実させるとともに、「学校2020レガシー」の構築に向けた取組を行います。

- ◎「大泉桜の里」を稲作教育としてだけでなく、命の教育やキャリア教育のシンボリックな存在としての活用・継承
- ◎昔の遊び・室町体験学習（墨絵・華道・茶道）・能・狂言・伝統工芸体験・箏・修学旅行（奈良・京都方面）の9年間の系統化と活動の充実
- ◎百人一首・いろはかるたの活用、俳句づくり等の言語活動の充実と自国文化理解の促進
- ◎5、6年生からの部活動の活性化（5、6年生の入部率の向上）
- ◎都立大泉特別支援学校との交流を継続しながら、障害者理解を本校の「学校2020レガシー」に位置付け、共生社会を生きていくための社会性の育成



児童生徒総会



室町体験学習(第6学年)



たてわり遠足(第1～4学年)



桜祭(第1～9学年)



避難拠点訓練(第5～7学年)



学習発表会(第1～9学年)



9年生を送る会(第1～9学年)



部活動(第5～9学年)

4月	5月	6月	7月～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
着任式・一学期始業式・入学式 対面式・部活紹介 離任式 修学旅行(九学年)	児童生徒総会 運動会 文科省学力・学習状況調査(六・九学年)	新体力テスト 田植え(五学年) 道徳授業地区公開講座 水泳指導開始 武石移動教室(六学年) オーケストラ鑑賞教室(八学年) 期末考査(七・九学年)	飯盒炊爨(五・七学年) 職場体験(八学年) 期考査(七・九学年)	学校公開・セーフティ教室 防災校外学習(七学年) 学校防災訓練 児童生徒会役員選挙 連合陸上大会(七・九学年代表) 中間考査(五・九学年) たてわり遠足(一・四学年)	稲刈り(五学年) 室町体験学習(六学年) 児童生徒総会 下町校外学習(八学年)	開校記念日 期末考査(七・九学年) 就学時健康診断 持久走週間	避難拠点訓練(五・七学年) 社会科見学(三学年)	校内書き初め展 高校推薦入試 社会科見学(四学年) 連合ダンス発表会(七学年) スキー移動教室(八学年)	学習発表会・新入生保護者説明会 社会科見学(五学年) 社会科見学(六学年) 高校一般入試	卒業式(六・九学年) 四年生に感謝する会 虹をわたろう 九年生を送る会 学年末考査(七・九学年)



大泉桜の里稲作体験(第5学年)

児童生徒理解と健全育成を推進します。

- ◎「当たり前にするべきことは、当たり前にする（「あいさつ」「身だしなみ」「時間厳守」「整理整頓」など）」基本的な生活習慣の徹底
- ◎児童生徒会の活動を促進させ、いじめ根絶に向けた人権教育の充実
- ◎危険を察知し状況に応じて的確に判断し行動できる児童生徒の育成を目指した防災訓練の研究開発、及び町会、区防災課との連携、地域・家庭を支援・啓発した訓練の実施
- ◎学校応援団・青少年育成委員会・青少年委員等との連携強化
- ◎全児童生徒の制服または標準服の着用による学びに向かう姿勢、帰属感や連帯感の育成
- ◎特別な支援を要する児童生徒理解と対応を図るために、特別支援教室の更なる充実及び定期的な校内委員会の開催
- ◎5学年からの部活動の充実

望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、自己の生き方を考えさせます。

- ◎「職場体験・飯盒炊さん・防災リーダー・大泉桜の里」等を生かした9年間を通じたキャリア発達を支援する環境教育・食育・キャリア教育の充実
- ◎9年間を見通した大泉特別支援学校との交流の充実

小中一貫教育校としての研究成果を蓄積し、速やかに他機関等に提供できる体制を構築します。

- ◎練馬区教育課題研究指定校として、研究主題「小中一貫教育の特色を生かして、自立的・協働的な学びを育む授業の創造」を研究主題として、授業研究を推進していく。**練馬区初の小中一貫教育校にふさわしい配当予算を執行し、教育設備を充実します。**
- ◎特色ある学校づくりを目指し、前年度踏襲にとられない配当予算の執行と費用対効果の検証を厳正に行う。
- 業務委託会社(給食・用務)との的確な連携により学校運営を充実します。**
- ◎的確に情報提供を行い、適正な運営の支援を行う。